

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

誰もが安心して学び、自分を伸ばすことができる地域の学校へ

1. 知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む
2. 自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む
3. 真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む
4. 共に学び、友と育つ力を育む

2 中期的目標

1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上 ～知・徳・体の調和がとれ、自らを律することができる力を育む

(1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的な生活習慣の確立を図る。

- ア あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ちの定着・改善に取り組む。
- イ 学校と家庭が連携して、遅刻指導を推進する。

※年間遅刻者数を令和7年度にむけて2,500回以下を維持する。(R2:3,109回、R3:2,937回、R4:2,171回)

(2) 支援教育の充実でいじめのない学校づくりを推進する。

- ア 教育支援委員会、担任、保健室など生徒情報の共有と相談体制を充実させ、3年間を見通したきめ細かい生徒指導を行う。
- イ 「ポジティブ行動支援」による「ほめる。認める。励ます。」を充実させ、笑顔を増やす。
- ウ 教育支援カード、個別の支援計画等を活用する。個別支援については、「合理的配慮」の観点から具体的な方法を講じる。
- エ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、キャリアカウンセラーの活用継続とともに、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」において学校における居場所づくりを充実させる。子ども家庭センターなどとの連携により生徒支援をさらに充実させる。
- オ いじめの防止、早期発見に努めるとともに、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することにより、他人を思いやる気持ちを育成し、人権感覚を身につけさせる。

※学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」前年度以上を維持。(R2:75.6%、R3:82.8%、R4:83.9%)

2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ ～自ら考え、学び、行動し、未来を切り拓くことができる力を育む

(1) わかる授業をめざし、授業力の向上に取り組む。

- ア 10年研チーム(10年経験者、ミドルリーダー)を核とした、日常的な自主研修から授業力向上につなげる。
- イ ユニバーサルデザイン(UD)を意識した授業、ICTを活用した授業を構築し、生徒の学習意欲をUPさせる。
- ウ オンライン学習、タブレットを活用した学習について、研修を充実させ向上を図る。
- エ 他の府立高校、支援学校、近隣市教育委員会、近隣中学校と連携し、公開授業、教職員研修を充実させる。
- オ 教員相互の授業見学を推進する。

※ 学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」を令和7年度には75%以上をめざす。(R2:73.4%、R3:75.6%、R4:73.6%)

(2) キャリア教育を充実させ進路保障していく。

- ア 3年間を見通した系統的・組織的な進路指導體制の定着を図る。1・2年からガイダンスを行い、職業観を育成し、生徒一人ひとりの進路目標を確立する。また、学力向上を推進するための組織的な取組みを行う。
- イ キャリアパスポート活用を令和7年度までに充実させる。
- ウ 漢字検定や毎日パソコンコンクールについて引き続き全員受験を行い、さらなる上位級への挑戦を図る。
- エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。

※ 卒業時の進路決定者を令和7年度に97%にする。(R2:97.0%、R3:100%、R4:100%)

※ 生徒・保護者の進路指導満足度を令和7年度にともに85%以上にする。

(生徒・保護者 R2:89.9%・83.0%、R3:88.5%・79.1%、R4:84.5%・74.5%)

※ 就職内定率は100%の達成・継続をめざす。

3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実 ～真心をもって他者と協働し、地域に貢献することができる力を育む

- ア 部活動・行事の一層の充実を図るとともに、環境整備に努める。また、部活動加入率を令和7年度には45%以上をめざす。(R2:40.6%、R3:45.0%、R4:39.5%)

- イ 楽しい行事の実施を実現し、生徒が運営面においても経験を積むことができるよう指導する。

- ウ 部活動や生徒会活動などで中学校や地域との交流、地域貢献することを推進する。

- エ スポーツ科学専門コースの充実を図り、リーダーを育成する。(再掲)

- オ 学校説明会・体験入学、中学校・塾などへの訪問活動で本校の良さを発信する。学校ホームページ(ブログなど)、広報グッズ(マスコットなど)、メールマガジン等を充実させ、積極的に情報を発信する。PTAと連携し、保護者への情報発信を充実させる。

※ 学校行事への肯定値を前年度以上に向上させる。(R2:71.8%、R2:68.9%、R4:70.0%)

4. 共生推進教室の一層の充実とインクルーシブな学校づくりをすすめる。

- ア 信太高校全体の活動を通じて、すべての生徒に「ともに学び、友と育つ」教育をすすめる。

- イ 共生コーディネーター、進路指導部、学年が協力し、関係機関との連携で共生生徒の就労実現と自立に向けた取組みをすすめる。

5. 「チーム信太」で力を合わせて生徒を育てる体制づくり

- ア 教職員相互の信頼・意思疎通、学校運営への参画意識を醸成し、「やってみよう」の精神でアイデア発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。「10年研チーム」やミドルリーダーには経験年数の少ない教員のメンターとして活躍させる。

- イ 働き方改革に関する取り組み

部活動改革、全校一斉定時退庁日遵守、業務のデジタル化による業務効率化、超過勤務時間減、休暇取得に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>◇学校運営・環境 学校設備について整備できていると捉えているのは、生徒・教員ともに80%を超えている。興味に応じた教育課程（教員）については、昨年度と比べて13.4%増加している。 全体的な傾向として教員の値については増加しているが、保護者の項目については減少している。保護者・地域のニーズと学校の方向性を整理し、情報発信の方法を考えていく必要がある。</p> <p>◇教育相談・人権 「教育相談が充実し、悩みがあったときに相談できる先生が多い」（生徒）は過去最高の値であった。SC、SSWの来校や居場所カフェの実施がより充実し、生徒のニーズを満たしている。いじめや暴力、問題の対応についての項目は生徒・保護者・教員すべてにおいて増加しており、生徒・教員においては80%を超える高い値であった。年3回のアンケートの結果からその都度、担任などから聞き取りの実施など、学校としていじめは決して許さないという姿勢が伝わっているものと考えられる。</p> <p>◇学校生活 「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」の項目では、生徒・保護者・教員すべてにおいて増加した。生徒では7.8%増加している。また、生徒では「学校に行くのが楽しい」「学校生活は充実している」の項目も増加している。「ホームルーム活動は活発で生徒同士の関係が良い」（生徒）の項目も4年連続で上昇している。 今後も変わらず、生徒が楽しく安心して学べる居場所をつくることと充実した学校生活を送ることができるようにしていくことが重要である。学校行事に関する項目が増加している一方で、「信太高校に入ってよかったと思う」（生徒）「信太高校に入学させてよかったと思う」（保護者）が減少している。また、生徒と保護者の差が19.1%ある。学校行事以外の点から、信太高校の良さを伝えていくこと、生徒・保護者それぞれが求めている学校像のリサーチが必要だと考えられる。</p> <p>◇学習・体験 全生徒の回答として、多くの質問に対して昨年度より肯定的な意見が増加しており、3つの項目で過去最高の数値となった。「興味をもてる授業が多く、そのために先生も工夫している」の項目では、73.7%で過去最高となっている。「総合的な学習の内容が進んでおり、効果をあげている」の項目では教員で92.6%の過去最高を記録した。検定試験への学校の取り組みについては、教員・生徒・保護者ともに、減少となった。「地震などの防災や安全について学ぶ機会が多い」という項目で、生徒で過去最高の値となり、「台風などの非常時の保護者連絡や防災について学校はしっかりと取り組んでいる」の項目の保護者の回答が、昨年より増加した。</p> <p>◇進路指導・生活指導 進路指導に関しては、生徒・教員とも数値としては80%を超える数値を出している。進路行事や校外での体験行事を充実させることで、進路について考える機会を充実させる。どのような取り組みをしているのかを、保護者にも伝わる形で発信していく必要がある。 生徒指導に関しては、「学校生活についての先生の指導は納得できる」の項目（生徒）は61.5%と、昨年より少し増加している。 納得していないがルールは守っているという生徒が一定数いる。ルールを守っているという項目で肯定的な意見が非常に高いため、その数値の維持をめざす。そして、生徒指導を行う際にも、しっかりと双方が納得できるように説明を行うことが必要となってくる。また「社会のルールや公共心について学ぶ機会が多い」については生徒・保護者・教員すべてにおいて約80%の肯定的評価を得ている。生徒指導は社会に出た時の基礎となる部分であるという考えを教員・生徒・保護者がしっかりと共有し、80%以上の高水準を維持していきたい。</p> <p>◇特別活動・その他 部活動については、いずれも80%以上の高い数値である。部活動の加入率の増加を目指し、より一層部活動の活性化を図る。国際交流やボランティア活動など、生徒が中心となって、達成感や成長を実感できる取り組みを進めていく必要がある。 保護者への情報提供については、ホームページやブログ、さくら連絡網などを活用し、工夫をしていきたい。</p>	<p>第1回 令和5年6月23日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールミッション・スクールポリシーについて スクールポリシー案について（1）の1項目目の「成功体験を積み」を「経験や体験を積み」にしてはどうか。理由は必ずしも成功しなければならないのではなく、失敗も経験となるため。（→満場一致のため上記通り変更。） ・令和5年度学校経営計画及び学校評価について 今年度定員割れを受け広報活動について 行事など楽しそうな様子が伝わるようにHPの充実をはかるとよい 制服が選べるなど自由化を進めてはどうか 特色であるスポーツコースを前面に出し、進路実績や部活動実績などもHPで発信してはどうか など貴重なご意見をいただいた ・学校教育計画 ・進路状況等 ・活性化事業について <p>第2回 令和5年11月17日(金)</p> <p>【報告】</p> <p>①学校経営計画進捗状況 ・第1層支援の充実 ・魅力の発信 ・学校行事の実施状況</p> <p>②授業アンケート経年変化 （意見）生徒の取組・意識の回答では、自分で控えめな判断をしているかも。数値以上に組み立てているかも。</p> <p>③39期進路状況 【議案】 ※議案について質問を終えて、参加委員全員から了承を得る。</p> <p>④学校教育自己診断 ・アンケート項目、実施方法の確認</p> <p>⑤教科書選定理由 【意見交換】 <授業について> （質問）中学校は主体的、対話的な内容で授業をしているが、高校は一斉授業か。電子黒板を使用しているか。 端末は使っているか。端末は持ち帰っているか。 天吊りのプロジェクターは全部の教室についているか。 （回答）主体的、対話的な内容もあるが、先生や単元による。電子黒板などのインフラは整備中。 端末は使用しているが、毎時間使用していないので、まだ習慣化できていない。 端末は持ち帰っている。 天吊りのプロジェクターは、ホームルーム教室にはすべてについている。 <学校生活について> （意見）就職が多い学校だと認識している。ポジティブな教育をうけてから就職して頑張してほしい。人間力を身につけて卒業してほしい。</p> <p>第3回 令和6年2月2日(金)</p> <p>【報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度学校教育自己診断について経年変化を把握し、今後の教育方針の基礎資料とするため分析結果を説明 （質問）生徒の回答数が前年度より減っているのは何故か？インフルエンザ等による欠席によるものか？ （回答）インフルエンザがまん延していた等の要因は確認できず、シンプルに当日の欠席者が多かったと認識している。 （質問）教職員の思いと保護者の思いが乖離していないか？ （回答）回答をしてくれている保護者は学校に対して積極的に発言をしてくれているので、結果を踏まえ学校の教育方針について丁寧に伝えていくことが大事だと思っている。 （質問）生徒の回答は全学年の回答傾向か？各学年ごとに特色があるのではないか？学年ごとの傾向と分析も公表してはどうか？ （回答）学年ごとの傾向も分析しており、現在は全学年の生徒回答のみホームページに公表している。学年ごとの結果も公表することを検討したい。 ・第2回授業アンケートに対して分析を説明 ・進路状況報告 （質問）就職内定が10年以上連続で100%とのことだが、退職率は把握しているのか？ （回答）卒業しているため、全てを把握しきれず全容を確認できないが、全国調査（3年以内退職率）より低い数値で、1割いないと認識している。 <p>【議案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度学校経営計画及び学校評価について説明 ※議案について説明を終えて、特に質問はなく参加委員全員から了承を得る。 <p>【意見交換】</p> <p>（質問）制服が変わるとのことだが、私服が認められ自由な学校もあり、今回の改訂の背景はどのようなものか？また、制服に対する保護者の考えと生徒たちの考えは違うと思うが、今回の反響はどのようなものか。 （回答）今回の改訂は多様性を認め合い「ジェンダーレス」に対応したものであり、また、機能的な生地も開発されているため、それを導入したものである。発表したばかりで、まだ具体的な反響は把握していない。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1. 安全で安心な学校空間づくりと学校魅力の向上	(1) 生徒指導の充実と支援体制の強化で基本的生活習慣の確立を図る。 ア あいさつ運動・服装頭髪指導。	(1) ア 社会人基礎力の育成のため、生徒指導の目的を理解させたうえで、あらゆる場面で「あいさつ、時間の遵守、みだしなみ、規律ある授業態度、美化活動、感謝の気持ち」などの基本的生活習慣の定着・改善を推進する。 全職員による早朝の服装頭髪指導（月2回）を継続する。	(1) ア・全職員による毎朝の挨拶運動と服装頭髪指導（月2回）において、生徒への声掛けを充実する。 ・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」前年度以上を維持。[57.5%]	(1) ア・朝の立ち番で身だしなみや時間遵守の姿勢が浸透し維持できている（○） ・学校教育自己診断の「先生の指導は納得」[61.5%]（○）
	イ 学校と家庭が連携した、遅刻指導。	イ 遅刻カード、早朝登校、保護者との連携などを取り入れた遅刻指導を推進する。他学年の遅刻数も含めた遅刻数の速報を適宜公開し、生徒と教員の意識づけと士気を高める。	イ・年間延べ遅刻件数 2500 回以下を維持する。[2171 回]	イ・年間延べ遅刻件数 [3595 回]（△）
	(2) いじめのない学校づくり ア 相談体制の充実。	(2) ア 教育支援委員会、担任会、保健室等の中で生徒情報の把握を速やかに行い、支援内容などを、職員会議等において全教員で共有化する。	(2) ア・学校教育自己診断の「命の大切さや人権について学ぶ機会が多い」75%以上維持。[83.9%]	ア・生徒一人ひとりに応じた支援をきめ細かくできた。学校教育自己診断[88.7%]（◎）
	イ 「ポジティブ行動支援」による指導。 ウ スクールカウンセラーなど、外部人材・外部機関の活用。	イ 「ポジティブ行動支援」の取り組みを増やす。 ウ SC、SSW、CC、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」など外部人材の協力を得て、専門的知識に基づいた生徒支援を充実させる。子ども家庭センター等の外部機関との連携で生徒支援を組織的に行う。	ウ・外部機関との連携を学期に1回以上実施。	イ・「ポジティブ行動支援」職員会議で全体支援として位置づけ、ポジティブ行動支援を教員に学習してもらうため、徳島県教育委員会のHPのリンクを紹介し、書籍を購入し職員室に設置した。 ウ・SSW, キャリアカウンセラー, SCによる講演会3回実施。地域の子どもの家庭センターと連携し一時保護や見守りを通し生徒の支援（◎）
	エ いじめの防止。	エ 人権教育推進委員会、いじめ防止・対策委員会を中心に、「いじめアンケート」を活用し、いじめ防止、早期発見、問題を見逃さずに組織的に迅速に対応することを継続する。	エ・学校教育自己診断の「いじめや暴力のない学校づくり」前年度水準を維持。[80.9%] ・学校教育自己診断の「いじめ等を見逃さず対応」前年度水準を維持。[78.4%]	エ・学校教育自己診断 [83.9%]（○） ・学校教育自己診断 [83.4%]（◎）

府立信太高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2. 生徒の学力向上・進路実現を柱に「入って良かった」と思える学校へ</p>	<p>(1) 授業力向上。 ア 10年研チームを中心とした授業力向上。 イ ユニバーサルデザイン、ICTを活用した授業構築。 ウ オンライン学習・タブレット学習の研修 エ 公開授業、教職員研修を充実させる。 オ 教員相互の授業見学を推進する。</p> <p>(2) キャリア教育を充実させ進路保障をしていく。 ア 3年間を見通したキャリア教育。 イ キャリアパスポート活用の研究。 ウ 全生徒の資格取得の推進。 エ スポーツ科学専門コースの充実。</p>	<p>(1) ア 10年研チームが10年経験者研修と連動させ、研究授業や課題解決型自主研修などを主催し授業力向上を図る。 イ ユニバーサルデザイン(UD)、ICTを意識した授業力向上のための交流を他校と行う。UD授業推進リーダーの育成。 ウ GIGAスクール委員会を設置、タブレット活用授業について研究、普及に取り組む。 エ 泉大津市教委との連携事業による公開授業・研究授業の実施および参加。 オ 公開授業期間に相互見学を推奨。</p> <p>(2) ア・進路指導は、2年3学期を3年0学期と位置づけ3年1学期のスタートをより良いものにする。 ・「総合的な探究の時間」において、専門学校等の外部人材を活用し、職業観を育成する。 ・「学力生活実態調査」「基礎学力調査」の継続的な活用を行う。 イ キャリアパスポートを有効活用するために内容をブラッシュアップする。 ウ 漢字検定、毎日パソコンコンクールの全員受検を継続するとともに、英検の受検も推進する。 エ・スポーツ科学専門コースによる支援学校交流。 ・専門コースとして学んだ知識、技術、戦術や練習に取り組む姿勢などを日常生活に反映させ進路実現の糧とする。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断の「生徒の授業理解度」70%以上を維持。[73.6%] ・学校教育自己診断の「様々な評価の工夫」80%以上を維持。[88.7%] ・授業アンケートの「生徒の興味・関心」3.2以上。[第1回3.31 第2回3.28] ・授業アンケートの「生徒の知識・技能」3.2以上。[第1回3.36 第2回3.30] イ・授業力向上のための他校交流を1回以上実施。 ウ・学校教育自己診断「生徒がクロームブックを効果的に活用できるように学校は取り組んでいる」80%以上を維持[87.6%] エ・近隣中学校との情報交換、授業交流を1回以上実施。 オ・公開授業週間を年2回実施</p> <p>(2) ア・卒業時の進路決定率95%以上。[100%] ・生徒・保護者の進路指導満足度ともに80%以上維持。[生徒84.5%、保護者74.5%] ・就職内定率、100%の継続 ・学校教育自己診断における「体験活動や体験学習が充実」55%以上。[47.2%] イ・行事等の振り返り内容を学年ごとに精査。 ウ・漢字検定3級以上の合格率前年度以上。[33.5%] エ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「興味・関心」3.70以上。[第1回3.7 第2回3.6] ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「知識・技能」3.70以上。[第1回3.7 第2回3.7]</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断 [75.2%] (○) ・学校教育自己診断 [88.7%] (○) ・授業アンケートの「生徒の興味・関心」[第1回3.30 第2回3.30] (○) ・授業アンケートの「生徒の知識・技能」[第1回3.34 第2回3.34] (○) イ・すながわ高等支援と2回交流した (○) ウ・学校教育自己診断 [81.2%] (○) エ・泉大津市立東陽中学校へ出前授業、出身中学へビデオメッセージ送信 (○) オ・公開授業週間6月、11月実施 (○)</p> <p>(2) ア・卒業時の進路決定率[100%] (○) ・生徒・保護者の進路指導満足度 [生徒84.4%、保護者68.1%] (△) 保護者の満足度が低下している。 ・就職内定率[100%] (○) ・学校教育自己診断 [53%] (○) 55%以上は達成していないが昨年度より上昇している。 イ・3年間の振り返りを保存し、3年次の自己実現に活かしている ウ・漢字検定3級以上の合格率 [17.7%] (△) エ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「興味・関心」 [第1回3.8 第2回3.8] (○) ・スポーツ科学専門コースの授業アンケート「知識・技能」 [第1回3.8 第2回3.8] (○)</p>
---	--	---	---	--

府立信太高等学校

<p style="text-align: center;">3. 保護者・地域との連携、および行事・部活動等の充実</p>	<p>ア 部活動・行事の一層の充実、環境整備。</p> <p>イ 行事を楽しみ、運営経験を積むことができるよう指導する。</p> <p>ウ 部活動などで中学校や地域との交流を推進する。</p> <p>エ スポーツ科学専門コースの充実。(再掲)</p> <p>オ 積極的な情報発信と PTA との連携。</p>	<p>ア 誰もが部活動に入れるよう、部活動環境のさらなる整備と行事の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化的活動推進のための、大学や専門学校による出前講座の実施。 <p>イ 楽しむ行事の実施(合唱コンクール、クラスマッチ)。学年規模の行事運営経験を積ませ、学校規模の大きな行事運営能力を育成する。</p> <p>ウ 近隣の福祉施設、地元商店街、近隣中学校、支援学校など各機関・団体との交流・連携を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動を再開。 <p>エ・スポーツ科学専門コースによる支援学校交流。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門コースとして学んだ取り組む姿勢を地域連携事業や学校行事などで実践する。 <p>オ・中学校や塾などへの訪問活動を推進する。学校ホームページ・ブログの充実、学校案内リーフレットの改訂、広報グッズの活用により、積極的に情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA と協力し保護者へ信太の取組み情報発信 	<p>ア・1年部活動加入率 45%以上。</p> <p>[1年 30.4%、 全学年 39.5%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断での「学校生活充実度」70%以上維持。[71.9%] ・出前講座を1回以上実施。 <p>イ・学校教育自己診断での「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」前年度以上に。[65.6%]</p> <p>ウ・地域行事参加年間5回以上。[0回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動年間5回以上。[10回] ・中学生対象部活動行事年間10回以上。[10回] <p>エ・学校教育自己診断「部活度が盛んで熱心に取り組まれている」前年比以上[86.8%]</p> <p>オ・校内での学校説明会年5回、体験入学満足度 100%を維持。[95.5%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問1・3年生の出身校全校網羅。[20校] ・ブログ随時更新を心掛ける[年間50本] 	<p>ア・1年部活動加入率 [1年 53%、全学年 44.7%] (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断 [73%] (○) ・近畿職業能力開発大学校1回、南海福祉看護専門学校2回 出前授業実施 (○) <p>イ・学校教育自己診断 [73.4%] (◎)</p> <p>ウ・地域行事参加年間 [5回] (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域掃除活動[25回] 近隣公園清掃含む (○) ・各部中学生招待合同練習実施 [97回] (◎) <p>エ・学校教育自己診断 [85.7%] (○)</p> <p>学校教育自己診断の結果では低下しているが、実際にはクラブの加入率が上昇し熱心に取り組まれている。</p> <p>オ・校内での学校説明会年5回、体験入学満足度[97.1%] (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問 のべ120校 ・ブログ更新69本
<p style="text-align: center;">4. 共生推進教室の充実</p>	<p>ア すべての生徒と「ともに学び、友と育つ」教育の推進。</p> <p>イ 共生生徒の自立に向けた取組みを支援する。</p>	<p>ア 「障がい理解 HR」において、障がいのある生徒とない生徒が、あらゆる行事とともに参加することの大切さを教え、それに必要な配慮を行う。</p> <p>イ・共生コーディネーター、進路指導部、学年が連携し、関係機関との連携で就労を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSTを取り入れた自立活動の授業を行う。 ・学校説明会等において、共生生徒が中心となり、「ともに学ぶ教育」の説明や運営を行う。 ・自己肯定感育成のための活動を計画する。 	<p>ア・学校教育自己診断の「障がいのある生徒と『ともに学ぶ』教育」生徒、保護者ともに前年度以上。[生徒 84.5%、保護者 72.4%]</p> <p>イ・共生生徒の進路実現 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信太ファーム 農作物を栽培し、作業を通して自己肯定感や達成感を持たせ、自立を促す。 ・生徒による情報発信、学校説明会等で説明者として舞台に立たせる 	<p>ア・学校教育自己診断 [生徒 83%、保護者 68.9%] (△)</p> <p>保護者の肯定値が低下している。</p> <p>イ・進路実現[66.7%] (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人が浪人しても大学受験をめざすと頑張っているので100%でなくてもよい ・信太ファーム 作業を通して自己肯定感や達成感を味わい、協働することを学んだ (◎) ・共生生徒が学校説明会で活躍。(○)

府立信太高等学校

<p style="text-align: center;">5. 「チーム信太」体制づくり</p>	<p>ア 教職員のアイデアの発案を増やす。教職員・生徒・保護者が一丸となって取り組む。</p> <p>イ 働き方改革を推進。</p>	<p>ア・職員会議、教職員研修を通して、教職員の学校運営参画意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメント委員会を中心に、学校目標を実現するための教育課程を編成する。 ・経営推進費への応募、校長マネジメント経費活用など、学校運営アイデアを募集する。 <p>イ・業務の効率化について研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月あたりの超過勤務時間 80 時間以上の人数を減らす。 ・休暇休業制度の普及と振替休日取得の推奨。 <p>・部活動改革。生徒の多様な「学びの場」を確保しながら教員の業務負担の軽減を模索する。</p> <p>・全校一斉定時退庁日遵守、業務のデジタル化による業務効率化、超過勤務時間減、休暇取得に取り組む。</p>	<p>ア・学校教育自己診断の教員「学校目標が共有され、教育活動について日常的に話し合いがなされている」75%以上。[66.0%]</p> <p>イ・超過勤務時間 80 時間以上のべ人数の比率を昨年度以下。[4.8%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性育児休暇取得促進、遅出・早出勤務や年休が取りやすい職場の雰囲気づくり。 <p>・合同部活動「大阪モデル」の活用。</p> <p>・民間の連絡アプリを活用し、保護者通知、生徒欠席連絡のデジタル化。</p> <p>・職員会議資料のペーパーレス化を導入することで、職員会議の時短化。</p>	<p>ア・学校教育自己診断の教員[90.8%] (◎)</p> <p>イ・超過勤務時間 80 時間以上のべ人数の比率[4.7%] (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児時短 1 名、部分休業 4 名 ・遅出勤務 1 名、配偶者の出産休暇 1 名、配偶者の育児参加休暇 1 名 (○) ・各クラブ 1 回以上は実施した <p>・完全実施 (○)</p> <p>・完全実施 (○)</p>
--	--	--	--	--